アメリカに志を求めて

語学にすばらしい才能を持っていた英世は、アメリカのシモン・フレキスナー教授が来日したとき、通訳として東京を案内しました。フレキスナー教授との三日足らずの出会いの中で、

「アメリカに来て研究するなら、わたしのところに来てみなさい。」

との、言葉をもらいました。そして、アメリカ留学を決意しました。

アメリカに行くにしても、旅費がありません。どうにかして、アメリカに行くお金をつくりたいと思っていました。血脇先生は、このことを知って、いろいろ苦労してお金をつくり、はげましました。

明治三十三年（一九〇〇年）十二月五日、二十四歳になった英世は、アメリ